【資料１】

令和７年３月２６日（水）
第２回佐倉市オーガニックビレッジ推進部会

令和６年度事業報告

佐倉市オーガニックビレッジ推進部会

１．収入及び支出の概要

収入				支出			
項目	計画	実績	差引	項目	計画	実績	差引
有機農業産地づくり推進交付金	4,815,735	4,668,271	△147,464	（１）検討会の開催	38,915	0	△38,915
				（２）実施計画の実現に向けた取組のうち生産関連			
				ア　栽培技術研修会等	1,000,200	968,320	△31,880
				イ　有機JAS認証取得支援	504,400	363,080	△141,320
				ウ　先進地視察	127,000	122,530	△4,470
				（３）実施計画の実現に向けた取組のうち加工・流通関連			
				ア　展示会への出展	133,940	303,351	169,411
				（４）実施計画の実現に向けた取組のうち消費関連			
				ア　学校給食における有機農産物の活用	900,000	930,110	30,110
				イ　有機農産物等流通システムの実証	2,000,400	1,980,880	△19,520
				ウ　一般向けセミナーの開催	110,880	0	△110,880
計	4,815,735	4,668,271	△147,464		4,815,735	4,668,271	△147,464

２．各項目の内容について

（１）検討会の開催　０円（計画比　△３８,９１５円）

佐倉市オーガニックビレッジ推進部会への専門家出席費用及び消耗品費として計上していたが、いずれも該当する支出がなかった。

（２）生産関連の取組　１,４５３,９３０円（計画比　△１７７,６７０円）

ア　栽培技術研修会等　９６８,３２０円（計画比　△３１,８８０円）

①　有機米の栽培技術研修会

ＮＰＯ法人民間稲作研究所へ委託を行い、以下のとおり実施した。

第１回　令和６年７月１７日（水）（ほ場巡回による生育状況の確認・指導）

第２回　令和６年１０月２３日（水）（収穫した玄米の確認、秋耕について）

第３回　令和７年２月１９日（水）（種子の準備と育苗について）

【参考】有機米の栽培技術研修会の様子

② 有機農業における販路拡大研修会

日時：令和７年１月２４日（金）１３時３０分～１６時

場所：佐倉市立美術館４階ホール

講師：白土　卓志氏（株式会社いかす）、太田　葵氏・帆苅　崇氏（イオンリテール株式会社）、
甲斐谷　治氏（かち農園）

内容：有機農産物のブランド化やマーケティング、イオンにおける取組状況など

イ　有機JAS認証取得支援　３６３,０８０円（計画比　△１４１,３２０円）

４件の有機農業者に対して、有機JAS認証取得に要する費用の支援を行った。

ウ　先進地視察　１２２,５３０円（計画比　△４,４７０円）

日時：令和６年５月２３日（木）・２４日（金）

場所：京都府亀岡市

内容：

○　亀岡市役所で担当職員から有機農業に関する取組のほか、環境先進都市としての取組や、企業連携についての講義を受けた。

○　また、イオン化装置を用いた雑草抑制に関する実証水田や農産物直売所、亀岡オーガニックスクールの視察なども併せて行った。

（３）加工・流通関連の取組（ア　展示会への出展）　３０３,３５１円（計画比　＋１６９,４１１円）

①　シン・カイリン祭への出展

日程：令和６年７月１２日（金）

場所：佐倉市役所

内容：有機農産物の販売・PR

② 東京都庁全国観光PRコーナーへの出展

日程：令和６年９月１８日（水）～２０日（金）

場所：東京都庁

内容：有機農産物の販売・PR

③　イオン周年祭への出展

日程：令和６年１０月１８日（金）～２０日（日）

場所：イオンユーカリが丘店

内容：有機農産物の販売・PR

④　GOODLIFEフェア２０２４への出展

日程：令和６年１０月２５日（金）～２７日（日）

場所：東京ビッグサイト

内容：有機農業に関する市の取組のPR

⑤　佐倉・産業大博覧会への出展

日程：令和６年１１月９日（土）・１０日（日）

場所：佐倉草ぶえの丘

内容：有機農産物の販売・PR

（４）消費関連の取組　２,９１０,９９０円（計画比　△１００,２９０円）

ア　学校給食における有機農産物の活用（有機米給食の実施）　９３０,１１０円（計画比　＋３０,１１０円）

○　６軒の生産者から約９,０００kg（玄米）の有機米が提供され、令和６年１１月に市内全小中学校で平均８日間、有機米給食が実施された。

○　また、実施に合わせて、特別職や生産者による学校訪問も行われた。

イ　有機農産物等流通システムの実証　１,９８０,８８０円（計画比　△１９,５２０円）

①　実証結果の概要

○　令和６年１１月（実証１回目）

・　参加校：小学校２校（間野台小、青菅小）
・　参加農業者：２名
・　取引品目：さつまいも、里芋、人参など
・　取引金額：１６２,２１５円（税別）

○　令和７年１月（実証２回目）

・　参加校：小学校１０校、中学校６校
（佐倉小、内郷小、印南小、志津小、和田小、井野小、佐倉東小、西志津小、間野台小、白銀小、佐倉中、志津中、臼井中、佐倉東中、臼井西中、根郷中）
・　参加農業者：６名
・　取引品目：さつまいも、里芋、人参、ほうれん草など
・　取引金額：１１１,８２２円（税別）

②　実証に対する主な感想

○　生産者

・　今回初めて給食に参入したが、（面識がなくても）新しい注文を受けやすいところが
とてもありがたく、一部受けきれないほどの問い合わせをもらうことができた。

・　システムの使用感に問題はなく簡単に利用できるが、今後を考えると手数料（１５％）が高い印象。
（手数料については今回の実証では免除）

・　既存のFAXによるやりとりで間に合っているため、システムの利用は手間に感じた。

・　いつ注文が入るのかわからないまま在庫を抱えることになってしまうので、
経営を考えると、システムに掲載するよりも市場へ出荷したい。

○　栄養士

・　既存のシステムに加えてやさいバスのシステムも使わないといけないので手間を感じた。

・　注文のキャンセルや変更がシステムを通さないとできないのが不便だった。

・　味や納品に関しては全く問題なかったが、システムだと価格の比較ばかりに目が向いてしまった。

・　知らなかった農家や地場産物が知れたのは良かった。農家だけでなく、地元の食品企業とのやりとりについても配送や手数料について調整してもらえると、今後も地場産物の活用促進につながると思う。

・　価格が慣行よりも割高で、給食の予算の中では使用に限りがあると思う。

③　今後について

○　生産者・栄養士のいずれにおいても、好意的な意見は一部にとどまり、特にシステムの利用自体を手間に感じる声が多く寄せられた。

○　上記のような意見を踏まえると、これまで面識のなかった農家と栄養士とのマッチングという点においては成果があったものの、現在の形で実証を継続するのは適切でないと考えられる。

○　既存のシステムとの両立や配送の効率化の問題などを踏まえ、令和７年度は、有機農産物等の活用促進にはどのような方策が有効か、改めて検討を行う１年間としたい。

ウ　一般向けセミナーの開催　０円（計画比　△１１０,８８０円）

一般消費者に対するセミナーの開催は行わなかったものの、展示会への出展により、市内外の消費者にPRを図ることができた。

３．その他

佐倉市の有機農業推進に関する取組について、県外から３件、海外から１件の視察があった。

①　茨城県かすみがうら市（令和６年８月１９日（月））

参加者：かすみがうら市オーガニック推進協議会（９名）

②　愛知県小牧市（令和６年１０月８日（火））

参加者：日本共産党小牧市議団（３名）

③　茨城県つくば市（令和６年１１月１５日（金））

参加者：北つくば農協地域農業振興協議会（１６名）

④　韓国全羅南道海南郡（令和６年１２月１０日（火））

参加者：海南郡農政課職員ほか（９名）

（茨城県かすみがうら市）

（韓国全羅南道海南郡）